

6 職員研修の取組

4-1 第二高校職員研修サイト

研究の成果をタイムリーに反映させることができる「第二高校職員研修サイト」を google サイトで作成し、活用を試みています。

サイトマップは下記の通りです。

🏠ホーム

- 二高 I S M (学校で行われるすべての研修全体の名称)
- 職員研修シラバス
- オンライン授業の計画
- Chrome 学習会 (毎週月曜日 16:00~16:40 実施・希望者参加)
- R3 授業研鑽推進月間

【I D】

- 見せどころシート
 - フォーム
 - 記入方法説明
 - 各教科実践例
 - 事業の記入例
- I Dの前提
- 結果の共有

【二高 I C Eモデル】

- 二高 I C E視点のチェックリスト (二高キャリアパスポートの取組①)

【授業振り返り】(二高キャリアパスポートの取組②)

【シラバス】

【思考を促す評価問題】

サイト内「シラバス」のタブでは、令和3年度から google スプレッドシートで作成し共有ドライブに保存する取組を開始した様式が提示されています。目標・評価の部分に I C Eの視点を加え、「履修上の注意および学習上のアドバイス」の部分にグラフィックシラバスを入れる形式としています。

令和3年度 SSH 探究部 職員研修 シラバス

<p>概要</p>	<p>SSH 第4期申請における今年度の到達目標は、「主体的・探究的に学ぶ手法を探究活動、授業の中で実施し、ICEを踏まえたルーブリックを用いて評価することで、主体的・探究的な学びにおける指導と評価の一体化を確立する。」である。</p> <p>これまで、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン（以下、ID）を基に、10の理論の中から適用を促進する書式「授業改善のための工夫の見せどころシート（以下、見せどころシート）」を活用することで、課題解決の糸口とし、事例を積み重ねた。その取組は、授業改善へ向けて①IDの視点での改善、②ICEモデルの活用検討、③ICTの活用へ向けて書式記入を取り掛かりとした活用実践である。今年度は、見せどころシートにおけるEの問いを磨くことを目標に、実践を積み重ねていく。</p>
<p>目標</p>	<p>(1) ICEモデル・ID・ICTがどのような場面でどのように活用できるかを「授業改善のための工夫の見せどころシート」で全員が例示できる。</p> <p>(2) 「見せどころシート」におけるEの問いを教科会を通して磨き、シート内に適用することができる。</p> <p>(3) 「生徒主体の授業デザイン」になっているかを、TPチャートを使って確認できる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">第二高校探究型授業開発のPDCAサイクル ～「みつめる力」「きわめる力」「つなげる力」の向上～</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">Plan</p> <p>もっと活用できるシラバスへ ICEの視点を入れたテキストシラバス グラフィックシラバス</p> <p>→見通しが立つ指導と見通しが立つ学習</p> <p>IDの道具：メーガーの3つの質問</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">Do</p> <p>多様な教育活動の展開 授業改善のための工夫の見せどころシート 探究型授業の充実・Eの問い</p> <p>→浅い理解、深い理解、そして知識の構成</p> <p>IDの道具：9教授事象・IDの第一原理</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">Action</p> <p>生徒への指導改善 「授業評価」項目や活用の工夫 学び方を支援する取組</p> <p>→学習者自身の自己調整能力</p> <p>IDの道具：学校学習の時間モデル・TOTEモデル・アンドラゴジー・ARCSモデル</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">Check</p> <p>多面的な学習評価の充実 ICEの観点を入れた考査問題の作成 診断的・形成的・総括的評価</p> <p>→浅い知識と深い知識のバランス</p> <p>IDの道具：学習成果の5分類・4段階評価モデル</p> </div> </div> </div>	
<p>年間を通しての取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> * ID/ICEの理解を深める。 * 生徒を「自立した学習者(learner)」にするため、一人1台端末を活用し、どう支援するか？授業時間外の学習活動の配分・工夫の設計を考え続ける。 * ティーチングポートフォリオチャート作成（以下、TPチャート） 取組で「生徒主体の授業デザインになっているか」を振り返り改善を促進する。 * Can Be Mapに取り組む。
<p>年度当初</p>	<p>事前課題</p> <p>年間シラバスの視覚的な見取り図「グラフィックシラバス」を作成し、教科の年間シラバスに併記してください。</p>

方法		参考動画	<p>授業改善の工夫の参考として、過去お知らせした動画です。御活用ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> * IDのワークショップ動画 ICU日本語教育研究センター主催ワークショップ 動機を高める授業と教材作成－インタラクショナル・デザインの手法を生かして－ (http://ocw.icu.as.jp/sl/sl_20150121/) * グラフィックシラバス関係動画 東京大学ファカルティ・ディベロップメント (インタラクティブティーチングより「もっと使えるシラバスを書こう」) (https://todai.tv/contents-list/2014FY/course2014/05)
	1学期	5/*	<ul style="list-style-type: none"> * 探究型授業等についての共通理解 * 思考を深めるC/Eの考査問題作成 (評価問題) * 「授業改善のための工夫の見せどころシート」改善点
		事後課題	* Google Forms で作成した「IDの前提 (高校版) *」に取り組む(1回目)
		事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ** 「学習設計マニュアル」活用ワークショップ 1年生GRAS/SSで実施の内容を体験・第3章を読んで Forms 投稿
		7/*	<ul style="list-style-type: none"> * 「学習設計マニュアル」活用ワークショップ オンライン授業 (オンデマンド・リアルタイム) を実施して工夫を振り返りましょう。
		事後課題	「Forms」で振り返りアンケート
	夏季	8/*	* TPチャート作成 (テーマ: 生徒主体の学びのデザインになっているかを自分で振り返る。今年度分をデジタル版で作成、TPチャート作成カフェ開催・希望者)
	2学期	事前課題	* 授業改善のための工夫の見せどころシートを全員作成し、教科会で検討する。
		各教科会	各教科会内で継続検討
		主体的な学びフォーラム	オンライン「主体的な学びフォーラム」における授業や考査問題等を通したICEモデルの理解促進。 「IDの前提 (高校版)」に取り組む (2回目)
		事後課題	「Forms」で振り返りアンケート
	3学期	事前課題	「Forms」で事前アンケート
		2/*	SSH 研究成果発表会
		事後課題	「Forms」を使って振り返りアンケート

*ID の前提 QR コード



二高 さらなる高みへ

SSH

Interactive Session Meeting

令和3年度第2回職員研修

- 1 日時 令和3年(2021年)8月23日(月) 13:00~
- 2 場所 アクティブラーニングルーム
- 3 内容

	司会 SSH探究部長 田尻
(1) 二高ICEモデルを利用した三観点評価	13:00~14:20
① ICEと「三観点評価」	進行:教務主任 野田朋秀先生 光永幸生校長先生 (15)
②「見せどころ設計マニュアル」を使って	(15)
②各教科に分かれて検討	授業開発班長 福永眞二先生 (30)
C・Eの配置、タイミング、内容等	
単元内でのC・Eの配置:「見せどころシート」	
③Jamboardで全体共有(各自Chromebook)	(20)
- <休憩14:20~14:30>
- (2) ICT活用アクションプラン作成ワーク 14:30~16:00

	進行:EdTech班長 田嶋努先生
①「デジタル・シティズンシップ」	
コンピューター一人1台時代の善き使い手を目指す学びの要約動画視聴	(10)
②ICT×教育×大学×社会とのつながり	(20)
-あらゆる学びを創造的にデザインする-	
熊本市立東野中学校 社会科非常勤講師 本校53期卒 古嶋太一 先生	
プロフィール:熊本県立大学大学院 アドミニストレーション研究科 アドミニストレーション専攻 博士前期課程 飯村研究室 1年 Apple Teacher Swift Playgrounds 認定	
③2学期からの授業・HR活動デジタル化検討ワーク	(30)
個人ワーク(各自chromebook) → グループ共有	
④全体共有(アクションプランをGoogleスプレッドシートへ記述)	(30)
- 4 備考 Chromebookをお持ちの先生は、必ずご持参ください。

令和3年度第2'回職員研修

- 1 日時 令和3年(2021年)8月24日(火) 9:00~9:30
- 2 場所 各ホームルーム教室(担任・副担任は担当の教室へ。Chromebook持参。)
(担任・副担任以外のすべての先生方、どこかの生徒教室に滞在してください。)
- 3 内容 Chromebookを有線接続でZOOM配信の確認(映像だけでなく音声も確認)
- 4 備考 30クラスで使用できるかの確認です。使用可能ならば、校内放送を使わずに始業式等ができるようになります。このための確認実践会です。

職員研修を終えて（一部引用）

○卒業生の古嶋太一先生の大学の研究紹介やICT活用に関するプレゼンについて、最も大事だと感じた点を教えてください。

- "今、接している生徒たち以上に学校生活でもICT機器を活用しているデジタルネイティブな生徒たちとこれからは接していかなければならない。ICTは教具から文具へ。
- "まずはICTを使ってみるのが重要と感じました。その上でこれまでの授業の良さも生かせる工夫を重ねたいと思います。
- 発表が適度なスピードで行われ、大学での研究内容やICTの実践がよく伝わったのではないかと感じました。それがとてもよかったと思います。大学の研究内容を一人の教員が網羅して理解することは難しくはありますが、大人数が進学する県立大についての理解が深まったことは、今後の進路指導へ視点を広げるものになったと思います。
- 情報の共有はやはり大事
- デジタルシティズンシップという概念を初めて理解すると同時に、それをどう生徒に身につけさせていくかが重要だと思った。車と同様、自分で考えて適切な使い方ができる子供ばかりではない。大人自身も適切な使い方ができているとはいいいがたい。デジタル社会の永遠の課題だとも感じる。
- まずは使うこと、生徒の為になるように使うこと。
- 動画を見て確かに子どもたちが生き生きと取り組んでいる様子は感じました。とにかく生徒たちが生き生きとした活動にすることが大切だと感じました。
- 積極的にICTを活用して、デザイナーにならなければいけないかなと感じた。
- 自分たちはteacherであるがfacilitator・designerにもならなければいけないこと
- できないじゃなくて、生徒同様学んでやろうとする姿勢が大事。
- ICTの根本理解が必要であるということ。
- 自己発見・自己認識が大事である。
- 熊本県立大で行っている取り組みがよくわかったし、総合型選抜でも自分の学びたいことと大学で研究していることのマッチングなど、大学のことをよく知った上で志望理由を考えることを意識していきたい。

○今日の取組で一番「これがわかった！」ということを教えてください。

- ICT機器を教具ではなく文具として使うデジタルネイティブな生徒たちと向き合うために、Googleアプリの活用をはじめとするツールを活用しながら、三観点評価をしていく。
- クラウド上で一緒に記入をする機会は、参加意欲をわかせるものだと感じました。
- 「デジタルシティズンシップ」という概念
- 情報モラルとシティズンシップの違いが分かった。
- コンピュータ端末を一人ひとりがどのように活用していくか。ダメダメだけでなく自分たちで考えてタブレットと付き合いしていくこと
- ICTに長けていないと、今後の教育活動は難しくなっていくのでは、という危機感を強く感じた。
- デジタルシティズンシップの考え方。自分の子どもへの指導の仕方や考え方に通じると思った。

第3回 第二高校主体的な学びフォーラム実施要項 (0924 案)

1 目的

本校SSH研究実施計画では、「みつめる力」「きわめる力」「つなげる力」を高めるために、すべての教科で探究科目を開発・実施することを目的としている。また、『第4期では、全教科・全領域にわたり全ての教師が探究活動の指導を行う。生徒が主体的に学ぶ上で必要な指導法について、授業開発部が中心となってモデル授業の開発を行うことで、全校で探究型授業を推進していくことができる。さらに二高ICEモデルの開発に取り組み、同一指標での評価を全ての授業に応用すれば、生徒の「みつめる力」「きわめる力」「つなげる力」の向上が期待できる。』と設定している。

本校では、教科を越えて使えるツールとしてインストラクショナルデザイン (ID) を使い、授業改善の工夫を続けており、平成30年度から「学び方の学び」を生徒自身が学んでいく取組を「学習設計マニュアル」を中心に行っている。各教室にいる生徒とつなぎ学校全体で協働的に学ぶ機会と著者の先生による講演会を組み合わせ設定することで、一層の深い学びにつなぐことを目指している。

2 期日・日程 (予定)

令和3年10月7日 (木)

午前：学校オンライン交流授業

(1・2時間目)【“学び方を学ぶ”ことを学ぼう!】

講師：熊本大学大学院教授 鈴木克明先生

講演：下記①～③テーマに沿って

- ① 各教室生徒の zoom での交流授業「学習設計マニュアル」第16章「これからの学びを想像する」を使って、一人1台端末を活用し、「よき使い手になる」ために、どのような使い方をするのか考える。
- ② 「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方：同意できますか？ (生徒版のIDの前提)」に取り組む。
- ③ その際に出た疑問を、鈴木先生へ質問する。Mentimeter を使ったリアルタイムのデータ共有をしつつ学びを深める。
(全生徒が chromebook を活用する場面とする。)

(3・4時間目)【SSH特別講演会】

講師：宝塚大学教授 井上幸喜先生

講演：STEAMプログラム「DX いかにしてモノ・コトとしてデザインされているか」
DX (デジタルトランスフォーメーション)。データサイエンス導入となる。ビッグデータとAIが、いかにモノ・コトとしてデザインされているか。すべての学部に関わる内容。)

午後：IDカフェ～ARCSモデルを中心に～ (校内職員研修を兼ねる)

(1) 開会セッション

司会：SSH探究部EdTech班長

13:45～ (5min)

①本校校長あいさつ ②鈴木克明先生御紹介

(2) 1班5人のグループに分かれてハイフレックスワークショップ

各分科会司会：SSH探究部員担当

13:45～16:10 (途中15分接続休憩含む)

- ① 学習者中心の学びとするために「IDの前提」に取り組み、共有。
(思考時間・同質問シート記入：15分)
- ② IDの前提に関する質問に対し、鈴木先生からコメント・質問タイムI (15分)
- ③ (事前課題) Chromebook・Classroom等をどのような使い方をしているかを、スプレッドシートに記入する。8月23日の各自のアクションプランを振り返り、使い方をグループで共有する。
(一人2分×5人=10分)
- ④ 具体例の紹介：染森先生による昨年度休校期間中の課題分析
～ARCSモデル活用の実践例報告～ (15分)

- ⑤ 今後どのような工夫ができるか、ARCS モデルにあてはめて各自分析する。(10分)
 - ⑥ 分析を共有する。(一人1分×5人=5分)
 - ⑦ 共有の中から、迷ったことや質問を Mentimeter で全体共有する。(共有:15分)
(zoom 接続のため、15分休憩。全員が zoom に入る。リフレクションは、ブレイクア
ウトルームで行う。)
 - ⑧ 鈴木先生に質問タイムⅡ (20分)
 - ⑨ リフレクションセッション (25分)
 - ⑩ 振り返り Forms 記入
- (4) 閉会 16:10

3 オンライン参加者

- *午前中の1・2時間目のみ YouTube ライブ配信とし、県内他校へお知らせする。
(提案・昨年度までは30人限定で来校を呼びかけていたことの代替)
- *午後の職員研修部分は、オンラインと対面を組み合わせたハイフレックス型で実施を計画。生徒教室に、4～5人のグループに分かれて入っていただき(事前に班分けを連絡)その数人は対面での情報共有ができるようにする。各教室を結んで情報を共有する際は、オンラインでの共有とする。先生方は、各自の chromebook を使う機会としていただき、投稿をすることで全体の情報共有ができるようにする。分散登校の状態を想定しており、分散登校期間での授業設計の質向上を目指します。(3年生は6時間目からの参加予定のため、分散して班に入室していただくよう組み合わせます。ほかに出張等の方はお知らせください。)

【フォーラムまでにお願ひしたことや予告について】

- 職員研修振り返りの Forms 投稿についての対応
7月19日実施が27件、8月23日実施が32件。
次回からは、研修時間内(あるいは当日内)での投稿をお願いします。
- ネットワークの事前確認および練習について
(可能であれば)9月16日7時間目の情報安全教育の最後のまとめで、あるいは前週の9月30日のホームルームの時間の一部で、1・2年生全体で、Mentimeter を使って投稿ができるか(ネットワークの状況確認)テストを実施したい。
- 「見せどころシート」の完成と「単元を貫く問い」に関する考査問題(教務部からの提案に基づいた2学期実施分を)の提出を【google 共有ドライブ>第二高校>「見せどころシート」】へお願いします。(指導と評価の一体化を示すセットになります。) 提出締切 後期授業研鑽月間終了時
- 1・2時間目は1・2年生のみの取り組み。3・4時間目は、教室プロジェクターを使って教室をオンラインでつなぎ、SSH特別講演会を実施。ZOOM を接続したままにしておくため、タブレット電源接続設置をお願いします。

	3年生日程	1・2年生日程
SHR 8:35~8:45	SHR	SHR
1限目 8:50~9:40	木曜日1時間目授業	IDの部
2限目 9:50~10:40	木曜日2時間目授業	(連続で実施)
3限目 10:50~11:40	(1~3年生全クラス	
4限目 11:50~12:40	・SSH特別オンライン講演会)	
掃除等	12:40~12:55 (掃除)	12:40~12:55
	12:55~13:40 (昼休み)	(掃除終礼)
5時間目	13:45~14:35	生徒は原則午後放課
	(100日前集会)	

- 3・4限目について
1・2年生は、担任・副担任の先生で連携して生徒教室に滞在し、講演会や取り組みを生徒と一緒に学ぶ気持ちで参加していただきますようお願いします。

教室掲示

10/7
(木)

第3回 第二高校

主体的な学びフォーラム

SSH探究部

あなたにとって“学び方を学ぶ”って何ですか？

講師の先生方は本校 SSH 運営指導委員でもあります

1・2年対象

AM

生徒は原則
午後放課

1,2限

学校オンライン交流授業 [50分]

講演：“学び方を学ぶ” ことを学ぼう！

熊本大学
教授システム学教育センター教授 鈴木克明先生

講演を踏まえて...

- 取組①「よき使い手になるためには」をスプレッドシートに記入
- 取組②二高キャリアパスポート3本柱の一つ、「『学び方を学ぶ』ための前提となる考え方」をFormsに投稿
- 取組③迷ったことや質問をMentimeterに投稿してリアルタイムに共有
- 取組④振り返りをFormsに投稿

3,4限

【SSH特別講演会・STEAMプログラム】 全学年対象
全学年オンライン講演会 [60分]講演：DX（デジタルトランスフォーメーション）
いかにしてモノ・コトとしてデザインされているか

ビッグデータとAIが、いかにモノ・コトとしてデザインされているか。すべての学部にかかわる内容です。

宝塚大学
東京メディア芸術学部教授 井上幸喜先生

3年生の動き ①②木曜授業 ③④講演会 ⑤共通テスト100日前集会

PM

職員研修

IDカフェ～ARCSモデルを中心に～

教科を超えて使えるツール、ID(インストラクショナルデザイン)のARCSモデルに当てはめて、分析・共有・質疑・更なる工夫をグループワーク

- ・1班5人のグループに分かれて、ハイフレックスワークショップ
- ・染森先生によるARCSモデル活用の実践報告

「学習設計マニュアル」を使った実践の取り組み状況

	1年生	2年生
課題として取り扱った章 (実施順)	2章 学習スタイルを把握 3章 学び方を振り返る 4章 学びの深さを考える 5章 学問分野の特色を考える 16章 これからの学びを創造する 9章 時間を管理する	(1年次の取り組み) 2章 学習スタイルを把握 3章 学び方を振り返る 4章 学びの深さを考える 5章 学問分野の特色を考える 9章 時間を管理する 11章 学習意欲を高める (2年次の取り組み) 16章 これからの学びを創造する
生徒の取り組み	・指定の章を読む。 ・内容を、パラグラフライティングの視点で要約する。 (2章のみ2年生での実施形式と同様で実施)	・指定の章を読む ・章末の取り組みを各自行う ・9クラスの教室をオンラインでつなぎ、リアルタイムで情報共有を行う (classi投票ボックスを使用) ・後日配布されたリフレクション通信を読む (思考→共有→振り返り・・・のスパイラルを意識した授業の流れ)
提出先	Google classroom にドキュメントで提出	Classi のポートフォリオ課題へ提出
提出先の特徴	各クラスで作成している classroom へ課題配信および各自提出を行っているため、その classroom に参加している教師しか読むことができない。	Classi では生徒の提出課題をすべての教師が読むことができ、状況を把握することができる。
評価	教師がループリックで評価し、その情報を生徒へ返却	教師がループリックで評価するのみ
生徒の相互評価	・相互評価の場面を設定することが必要である ・昨年度のリフレクション通信を共有し、学習設計マニュアルの取り組みについて振り返りを共有させたい。	・リアルタイムの情報共有やリフレクション通信を読むことで、自分の考えと比較する機会がある。 ・テーマ研究においては、相互評価する機会を設けた。

"学び方を学ぶ"ことを学ぼう！
1・2年生 1・2時間目進行表

1・2時間目「学び方を学ぶ」ことを学ぼう！」

【タイムスケジュール】

・下記は、進行表の案です。経過時間の部分は自動的に計算されます。

開始時刻	所要時間(分)	番号	内容・見出し	進行担当	場所(ツール)	内容説明	担当その他共有事項
8:35	0:15	1	接続テスト	生徒司会	アクティブラーニングルームから各教室へzoomで接続 (各教室オンライン配信用PC)	【各教室オンライン配信用PC接続確認】 ・音声チャット(アクティブラーニングルームと各教室) ・音声回線込みチャット ・映像チャット	【アクティブラーニングルームでの操作】【希望生徒へのアドレス共有】 ・アクティブラーニングルームと各教室をつなぐPC操作・YouTubeライブ配信：田嶋努T・佐伯T *事前にイヤホンにより自分の端末から視聴したい生徒を把握しておく ・司会生徒の補助および鈴木先生への共有：田尻 【各業務の担当】 広報おし作成：木田T 平井T、田中T、串山T、立場T、高橋T 【司会生徒の選出・指導】
8:50	0:05	2	開会あいさつ	生徒司会	アクティブラーニングルームから各教室へzoomで接続 (各教室オンライン配信用PC・教室プロジェクター)	・校長先生から鈴木克明先生をご紹介いただく。	・他オンライン会議が並行実施のため、校長先生以外のあいさつの可能性あり。
8:55	0:50	3	講演	鈴木克明先生	アクティブラーニングルームから各教室へ配信 (各教室オンライン配信用PC・教室プロジェクター)	・これまでの「学習設計マニュアル」を使った取り組みについて振り返り、これからの取り組みへつなげていく内容	・希望する生徒or各クラスSSH探究委員の生徒はアクティブラーニングルームで受講する
9:45	0:10	4	取り組み①	司会生徒	各自chromebookスプレッドシートに記入	・鈴木先生の講演を踏まえた上で、一人1台端末を活用し「よき使い手」になるために、どのような使い方を考えるのがよいかを考える。	・個人振り返り共有→再び個人の振り返り ・スプレッドシートは、クラス1枚配信し、自分の出席番号の欄に記入を各自が行う。 ・記入後は、相互の記述を共有し、よりよい使い方を考える。
9:55	0:10	5	取り組み②	司会生徒	(各自のclassroomに配信のFormsで投稿する。)	・第二高校キャリアパスポート3本柱について確認する。 ・各自にForms形式で配信されている(「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方：同意できますか?)に取り組み。 ・データグラフを画面で提供することで、取り組み内容を共有する。	・キャリアパスポートとは、「自らの学習状況やキャリア形成を見通した振り返り」でありながら、自分自身の姿勢や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオのことである。 ・第二高校キャリアパスポートは、三本柱である。I C E視点のチャットリスト付きポートフォリオ(2・3年生はclassiのストーリー機能を使って作成を継続してほしい)す、2つ目が授業振り返り、3つ目がここで取り組む「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方、です。
10:05	0:20	6	取り組み③	司会生徒 画面補助	(各自のclassroomにMentimeterアドレスを配信する。)	・迷ったことや質問をMentimeterで投稿する。	・各自のclassroomへMentimeterで作成したアドレスを配信し、各自が質問を投稿する機会とする。 ・質問を投稿する機会も「よき使い手」になるにはどのようなことを気をつけるのがよいかを考え行動に移す場面、考える機会とする。
10:25	0:10	7	リフレクション	司会生徒	振り返り記述を投稿	・配信されている振り返りのFormsに投稿する。	#時間調整あり ・振り返りのFormsを配信しておく。(記述はICEのチャットリストに記載しておく。)
10:35	0:05	8	謝辞	生徒			・勤務担当生徒を選出
10:40		9	終了				・生徒の振り返りFormsの記述を使ってリフレクション通信を作成する。

IDカフェ
～ARCSモデルを中心に～ 進行表

職員IDカフェ
【タイムスケジュール】

・下記は、進行表の案です。経過時間の部分は自動的に計算されます。

開始時刻	所要時間(分)	内容・見出し	進行担当	場所(ツール)	内容説明	担当その他共有事項
13:30	0:15	接続テスト	福永T	アクリテラニングールームから各教室へZoomで接続 (各教室オンライン配信用PC)	【各教室オンライン配信用PC接続確認】 ・音声チェック(アクリテラニングールームと各教室) ・音声回りの込みチェック ・映像チェック	【アクリテラニングールームでの操作】 ・アクリテラニングールームと各教室をつなぐPC操作:田嶋努T ・職員参加者が入力する質問等の鈴木先生への共有:田尻 【各教室の担当】 高崎T、平井T、田中T、串山T、佐伯T、立瀬T、木田T、高橋T、今村T(3年担当は10日前集会の終了後参加) 【実践発表】染森T
13:45	0:05	開会 あいさつ	福永T	アクリテラニングールームから各教室へZoomで接続 (各教室オンライン配信用PC・教室プロジェクター)	・校長先生から鈴木克明先生をご紹介していたく。	・他オンライン会議が並行実施のため、校長先生以外のあいさつの可能性あり。
13:50	0:10	アイスブレイク	各教室の司会 (SSH探究部)	各教室(対面・chromebookスプレッドシート)	・8/23のアクションプランを振り返る。 ・グループ内で共有する。(できたことや、予想よりできることが加わったことなど)	・個人振り返り→共有→再び個人の振り返り
14:00	0:15	実践発表	福永T	アクリテラニングールームから各教室へ配信 (各教室オンライン配信用PC・教室プロジェクター)	・染森先生の実践発表	
14:15	0:10	自己分析	各教室の司会 (SSH探究部)	各教室 (対面・chromebookスプレッドシート)	・今後どのような工夫ができるか、ARCSモデルにあてはめて各自分析する。	
14:25	0:20	共有	各教室の司会 (SSH探究部)	各教室 (対面・chromebookスプレッドシート)	・分析を共有する。 ・迷ったことや質問をスプレッドシート(質問用)に書き込む。	
14:45	0:15	休憩				#時間調整あり 【個人PCからのzoom入室時の留意事項】 ・zoomの参加者は入室時に自分の名前にする ・名前の記入は 教科を必ず1文字、おまえ(ひらがなで表記)とする ・アクリテラニングールームは自動作成する。 (教科は分散するようにする) ・ヘッドセット(ヘッドホンマイク)を使う
15:00	0:10	質問①	福永T	質問タイム	鈴木先生への質問タイム ・スプレッドシートに書かれたものからに加え、あるおらはオンライン等実際に質問もしていた。	
15:10	0:10	IDの前提 思考	各自	chromebookに配信 Formsに回答	・各自に配信されている「IDの前提」に答える。	・「IDの前提」(Forms版)を配信しておく。
15:20	0:10	過去データと比較	福永T	職員研修サイト	・6月に採集済みのデータと今回のデータを並べて比較する。 ・変化しているところなどを読み取り、職員全体で共有する。	
15:30	0:10	質問②	福永T	質問タイム		#時間調整あり
15:40	0:15	リプレクシオン①(グループ)	グループ内で司会を決める	アクリテラニングールーム	・自動作成したアクリテラニングールーム内で、振り返りを行う。 ・その場でグループ内の司会、発表者を決め、リプレクシオンを行う。	
15:55	0:10	リプレクシオン②(全体)	福永T	全体共有	・班で出されたリプレクシオンを、全体で共有する。	
16:05	0:05	閉会 あいさつ		アクリテラニングールームから各教室へZoomで接続 (各教室オンライン配信用PC・教室プロジェクター)	・(代表者)から鈴木克明先生へお礼の言葉を述べていただく。	・お礼の言葉を決めておく。
16:10	0:05	事後アンケート 終了		各自・Formsに回答	・事後部分振り返りを各自で記入の後、終了する。	・事後振り返りをFormsで配信しておく。
16:15	0:00					

3・4時間目【STEAMプログラム】DX（デジタルトランスフォーメーション）とデザイン
【タイムスケジュール】

下記は、進行表の案です。経過時間の部分は自動的に計算されます。

開始時刻	所要時間 (分)	番号	内容・見出し	進行担当	場所（ツール）	内容説明	担当その他共有事項
		1	休み時間	生徒司会	アクティブラーニングルームから各教室へZoomで接続維持 (各教室オンライン配信用PC)	【各教室オンライン配信用PC接続確認】 ・音声チェック（アクティブラーニングルームと各教室） ・音声回り込みチェック ・映像チェック	【アクティブラーニングルームでの操作】【希望生徒へのアトレス共有】 ・アクティブラーニングルームと各教室をつなぐPC操作：田嶋努T・佐伯T ・事前にイヤホンにより自分の端末から視聴したい生徒を把握しておく ・井上先生対応：染森T 【各業務の担当】 広報おし作り：木田T 今村T、高崎T、平井T、田中T、串山T、立塚T、高橋T 【学生会生の選出・指導】
10:50	0:05	2	開会 講師紹介	生徒司会	アクティブラーニングルームから各教室へZoomで接続 (各教室オンライン配信用PC・教室プロジェクター)	・校長先生から井上幸喜先生をご紹介いただく。	・他オンライン会議が並行実施のため、校長先生以外のあいさつの可能性あり。
10:55	1:00	3	講演	井上幸喜先生	アクティブラーニングルームから各教室へ配信 (各教室オンライン配信用PC・教室プロジェクター)	STEAMプログラム DX（デジタルトランスフォーメーション）とデザイン	・希望する生徒or各クラスSSH探究委員の生徒はアクティブラーニングルームで受講する
11:55	0:05	4	休憩				
12:00	0:15	5	質疑応答	司会生徒			
12:15	0:05	6	生徒謝辞	司会生徒		・謝辞生徒の選出 ・講師退出	・謝辞生徒の選出
12:20	0:20	7	アンケート	司会生徒	(各自のclassroomにFormsを配信する。)	・配信されている振り回りのFormsに投稿する。	#時間調整あり ・振りのFormsを配信しておく。
12:40		8	終了				・生徒の振り回りFormsの記述を使ってリレグシオン通信を作成する。

学習設計マニュアルの取り組みを振り返って

R3年度1年生

2021.10.4

10月7日主体的な学びフォーラムでの「“学び方を学ぶ”ことを学ぼう！」では、学習設計マニュアル著者の鈴木克明先生に直接質問できます。当日までに、配信されている事前取り組みを済ませ、講演を楽しめるようにしておきましょう！

下記は、事前取り組みをすでに済ませたみなさんの記録です。読んでみてください。

○勉強の結果でなく、過程を意識することが、学びの上で最も大切なことだということを知った。例えば、私はテストの点を取るために勉強しているが、それはその範囲のみ、ということが教科書に書いていたからこういう答えなのだろうと暗記しているのであって、学びが定着しているわけではなかった。また、この教科書はこういった勉強法がいいと言っていたからこうして勉強している、というように、学びの過程をあまり重視していなかった。その過程を見つめ直し、自分にあった学び方を見つけていくのが本当の学びではないのか。そういったことを学んだ。

○私が今回の「学び方を学ぶ」という授業全体を通して学ぶことができたのは、ただ一心不乱に勉強に取り組むのではなく、効率的な勉強方法を学んで正しく時間を有効活用することが勉強をする上で重要になってくる一つの事であるということを知ることができました。今まで、時間をかければそれである程度身につくという甘い考えが自分の中に取り組みましたが、それはあまり効率的ではないということを知ることができたので、とても良い学びでした。今回の学びを、基本的な国語・数学・英語に加え、様々な教科における勉強時間の使い方を見直すきっかけにして、自分で思考しながら取り組むことを大切にしていきたいです。

○自分の学習方法はもう自分の中で確定していたが、さらにそれを振り返るための方法に改善する点の探し方などを学ぶことができました。また、いろいろな名前の学習方法があることも初めて知れて、自分のはどれに当てはまるのだろうと考えることもできました。そこから自分に合う勉強の仕方が分かって、高校での勉強の仕方を中学校のときとは変えようと思わせてくれました。今では、日々の学習に手応えを感じられるようになってきて、自分に合っていることを実感します。

○私は、ただ試験対策や成績の向上に役立つ学習方法ではなく、本当の意味で役に立つ学習方法を学ぶことができた。中学生の頃には、試験対策のために学習をしていて、日頃からはその日の授業の振り返りなどは行っていなかった。そのために試験直前になると常にただ公式や問題の解き方を暗記することだけが頭の中にあった。しかし、それでは真の学習には繋がらず、自分の思考力の役には立っていないと気づくことができた。

また、真の学習では自分の考えや意見などを考えたり伝えるたりする上で役に立ち、社会に出た時に使える思考力などの学力が身につけることができると分かった。そのために今では、試験前に知識を量的に捉えて学習するのではなく、知識を質的に捉えて自分の考えや解答を考えることも大切にしている。自分の考えや問題の解き方を考え、それを模範解答と照らし合わせてどこが間違っているのか、どうしてそうなるのかを考え、自分とは異なる考えや解答をノートなどに記述するようにしている。"

○「学び方を学ぶ」という取り組みで自分にあった学び方を知ることができたのはとてもおもしろかったです。これまで学習設計マニュアルといった本は進んで読んでいたことがなかったので授業で読み進めるときも興味深かったです。とくに「学びをデザイン」することの章は集中して取り組むことができました。自分のタイプを確かめ、どういった方法で物事に取り組むと合っているのかということを知ることができると、より良い自分を作っていくことができると思いました。

またクラスメイトと自分の結果を話し合ったりする機会もあり、色々なタイプと人がいるということを改めて考えることができました。自分のことだけでなく、周りの人のことも知ってより学びを深めていきたいです。

○私が1学期に学んだことは生涯学習の大切さです。文部科学省にはかつて生涯学習政策局が配置されていました。(今は総合教育政策局に改組)このことから生涯学習の大切さがわかると思います。生涯学習とは生涯学び続けることです。学びは大学で終わりではないということです。社会に出てからも学び続けることが必要ということです。先日、大手飲料メーカーS社の社長の45歳定年制という発言が物議を醸しました。これに対し、加藤勝信前官房長官は60歳以下の定年は法律で禁止されているとコメントしましたが、S社の社長としては個人は会社に頼らず、1人1人がスキルを積極的に磨いていくことを促進したかったそうです。こうしたことから生涯学び続けなければならないということが伺えると思います。

○私は、学習設計マニュアルの取り組みから、自分の弱点を克服できるようになる過程を知ることができたと思います。私は、今まで勉強するときに、自分にとって何があったいて、どのような勉強の仕方をすればいいのか、などを考えずに、ただがむしゃらに勉強していました。ですが、学習設計マニュアルの取り組みによって、私が今までしてきたことは、無駄とまではいかないけれど、あまり効率的であるものではなかったのだな、と思いました。私は苦手な教科や分野があって、わからないからとりあえず最初から教科書を読もう、というようななんの工夫もない非効率的なやり方をしていました。ですが、この取り組みで、私の性格にあった方法をしないと自分の目標までとても回り道をしてしまうことがわかりました。また、適性診断でも私の正確にぴったりとまではいかないけれど、適切と言える目標であることがわかったので、この目標に向かって真っ直ぐに進んでいこうと思いました。

○自分の学習の仕方にじっくり向き合って学習の捉え方が変わりました。今までの自分の学習はテストへ向けての学習がほとんどで暗記してしまうことが多く、社会や生物はとにかく教科書の言葉などを詰め込み、数学や物理でも公式をとりあえず覚える”作業”のようなものをしてしまっていた気がします。でも、それは「学ぶ」ということとは少しずれているのかもしれないなと思いました。公式は特に成り立ちを知ればもっと理解しやすいだろうし、なに他のものとの共通点を見つけたりすることができるだろうなと思いました。

また、自分の学習スタイルを知り、新しい自分の見方を知りました。意外と自分で思っていることとは逆の性格だったり聞いて覚えるのか話して覚えるのかそれとも書いて覚えるのかなど今までどうやって学習するかにはあまり目を向けていなかったりしていたので、自分がどんなことが苦手なのか、どんなことが得意なのか見えて面白かったです。あとは実行するしかないので、少しずつ学習方法を改善していきたいです。

○学習設計マニュアルで学んだことは、「計画性の大切さ」です。今までの私はテスト前になってようやく復習を始めるだとか行き当たりばかりの感じで学習をしていたけれど一学期のGRの時間に学習を始める前にまずは実行可能な計画を立てることが大切だと学び、それから意識して計画的な学習に取り組むようになりました。計画性のない勉強よりも時間を決めて学習したり学習する範囲を予め設定したりしておくことで自ずと集中力もあがり、効率の良い学習になっていったと思います。特に、自分でその計画を立てることの大事さを実感したのは夏休み期間です。夏休みは長い休暇がある分、毎日継続して学習することが難しいです。しかし、夏休みという長期休みだからこそ計画を立てて勉強に取り組むことが大切だと思いました。そのため大体の勉強目標をたてその目標を夏休み機関に達成できるように毎日の計画をたて頑張ることができました。これからも学習に限らず計画を立てる習慣をつけたいと思います。

紙面の都合上投稿の一部の紹介です。木曜日までに事前取り組みを済ませておきましょう。

“学び方を学ぶ”ことを学ぼう！
 ～第3回主体的な学びフォーラム報告～
 SSHニュース 2021年10月20付



総合的探究の時間（本校ではGRやASという名前の学校設定科目）では、書籍「学習設計マニュアル」を使って学ぶ取り組みを設定しています。

第3回主体的な学びフォーラムでは、今年も著者のお一人で本校運営指導委員の熊本大学鈴木克明先生にお越しいただきました。分散登校が延長されることも想定し、半分の生徒は在宅での受講となっても双方向で学びを深められるスタイルになるように計画しました。分散登校は終わりましたが、教室を20教室オンラインでつなぎ、講師の先生のいらっしゃる会場を結ぶというハイフレックス型で実施となりました。写真は、鈴木先生がお話されている会場の様子です。



生徒たちは、9月には情報安全教育の取り組みとして、一人1台端末をどのように使うのが「善きICTの使い手」となりうるのか、を考えました。今回は、それに続いて鈴木先生のお話を伺った上で、「これからの社会に求められる学び」が実現できるようにするためにどのように取り組むべきか、を継続して考えることができました。

それに続く2つ目の取り組みは、「二高キャリア・パスポート」の1つとして本校が位置づけている「学び方を学ぶための前提となる考え方」の取り組みです。生徒達は、自分のclassroomに配信されているForms形式に「賛成・保留・反対」の意思表示をすることで取り組んでいきました。

最後の取り組みは、鈴木先生への質問、そして振り返りです。

この取り組み全体が、自分で考える、共有する、振り

返る、のサイクルを回す取り組みでした。最後の振り返りからいくつかご紹介します。

私は、1年生のときに学習設計マニュアルを読んでよく意味がわからないと感じる部分が多かったのですが、今もう一度読んでみると、理解できる範囲が広がっており、もう一度読み直してみたいと感じました。学ぶうえで「答え合わせをし、問う」ことが大切とおっしゃっていましたが、私は「何がわからないのか、わからない」として質問することを放棄していたので、そこを変えていけばより深い学びに繋がっていくのだらうと思いました。

何かを学ぶ際に学び方を知っているのと知らないのでは、学びの質のようなものが変わってくるということがわかりました。また、よりその質を上げるためには教える側の教え方を知るということも大切だと思いました。これから日常の授業をより良いものにするためには学ぶ側も教える側もそれぞれ学び方、教え方を学ぶことで実現されると思いました。

僕は、この学習を通して勉強への見方が180℃変わりました。なんのために学習するのかを深く考えさせられました。最初は理解が追いつかず何を言ってるのかさっぱりわかりませんでした。少しずつ学習を進めていくうちにだんだんと理解ができるようになり、学習の目的も考えることができました。ぼくは文章を書くのがとても苦手でした。でもこの学習でパラグラフライティングという文章の書き方を学んで、文章をより相手に伝えやすくすることができるようになりましたこの学習をして良かったです。

学びのサイクルを回していくことで、ぐっと成長につながることが実感された時間でした。

鈴木先生、高い熱量の充実したお話と生徒達との楽しいやりとりをありがとうございました。